

パーキンソン病について No6



パーキンソン病の薬物治療について

前号より続き

L-ドパ含製剤の副作用

●ジスキネジア

手足や口などが意志に反して動きます。長期服薬によりみられる症状で、ドパミンの供給が持続的でないために二次的に生じる現象といわれています

●食欲不振、吐き気、嘔吐

投与初期にみられることがありますが、慣れてくるとみられなくなります。症状を改善する薬もありますので、辛いようでしたら主治医に相談しましょう。

●胸痛、動悸、不整脈、めまい、起立性低血圧

まれに胸の痛みや動悸（心臓がドキドキする）、不整脈（脈が乱れる）などが現れる場合があります。薬を飲んで一定の時間が過ぎると同じ症状があらわれる場合など、明らかに薬が原因と考えられるときは、主治医に相談して下さい。

●睡眠障害、興奮、幻覚、妄想、うつ

これらの精神症状は、パーキンソン病にともなう症状として出ることもありますが、L-ドパの副作用としても現れます。薬を長時間服用している人には出ることがあります。

L-ドパ含製剤の問題点

服用をつづけて数週間もたつと、多くの患者さんは、症状の改善を感じます。しかし、2~5年間過ぎると、ほとんどの患者さんは、L-ドパが以前のように長く効かず、薬の効果がだんだん弱まってくるのを感じるようになります。これを「ウェアリング・オフ」といいます。

話題の新薬 スインプロイク錠

末梢性 μ オピオイド受容体拮抗剤

スインプロイク錠 0.2mg は、塩野義製薬で開発された末梢性 μ オピオイド受容体拮抗剤である。本剤は、血液脳関門の透過性を低下させることで、中枢におけるオピオイド鎮痛剤の作用を阻害しにくいように設計された薬剤である。オピオイド誘発性の便秘に対して一般に使用される下剤とは作用機序が異なることから、新たな治療選択肢となると考えられる。通常、成人にはナルデメジンとして 1 回 0.2mg を 1 日 1 回経口投与する。

薬価 0.2mg 1錠 = 272.1円

副作用情報 オブジーポ点滴静注

小野薬品から販売されている腫瘍薬の「オブジーポ点滴静注 20・100mg」は、直近3年1か月の副作用報告であって、因果関係が否定できない副作用として、「硬化性胆管炎関連症例」が6例（うち死亡0例）報告された。そのため重大な副作用の項に「硬化性胆管炎」が追記された。

酒強い人 痛風リスク2倍

酒に強いタイプの遺伝子を持つ人は、たとえ酒を飲まなかったとしても、痛風になるリスクが酒に弱い人より2倍近く高いとの研究成果を防衛医大や名古屋大などのチームが発表した。飲酒は痛風を引き起こす原因の一つ。酒に強い人は飲酒量が多いため、痛風になりやすいと推測されていたが、飲酒とは関わりなく遺伝子の働きが影響していることが示された。防衛医大の松尾洋孝講師は「酒に強い体質の人は、酒を控えるだけでなく、食事にも気を付けて痛風の予防に取り組んでほしい」と話している。この遺伝子は体内でアルコールの分解に関わる「ALDH2」で、人により酒に強い型と弱い型がある。酒に強い型の人は、弱い人より2・27倍痛風を発症しやすい結果となった

